令和5年度第1回江差町総合教育会議　議事録

開催日時：令和6年1月25日（木）　午後4時00分～午後4時55分
開催場所：庁内会議室
出　席　者：照井町長、出﨑教育長、加澤委員、小笠原委員、加川委員
欠　席　者：高岡委員
説　明　員：宮津学校教育課長、安田社会教育課長、大島指導主事、松島生涯学習推進員、
　　鈴木係長

1開会
2町長挨拶
3資料説明
4意見交換

（鈴木係長）
　それでは意見交換の方に移らせていただきます。
　意見交換ですので特に形式などございませんので、フリートークで進めていただければと思います。

（出﨑教育長）
　恐らく今の説明であれば皆さん話しにくいと思いますので、小中一貫の中でどういう取り組みをしているのかということも説明して、その中でどういう成果があるかということを皆さんと話し合いたいと思います。よろしくお願いします。
　北小中の小中一貫、大島先生の方にもいろいろまとめて貰っているので、少し特徴的な取り組みをお話していただければ、皆さん意見が出てくるかと思います。お願いします。

（大島指導主事）
　はい。コロナの3年間はかなり制約があり小学生と中学生が一緒になっての活動はほとんどできなかった状態ですけれども、今年度はコロナ前にやっていたものができるようになってきています。
　ではどんなことをしているかと言いますと、一貫教育の取り組みが始まった当初から具体的に進めたのが、中学校教員が小学校の教室に入って授業をする乗り入れ授業を継続的に行っています。当初、教科としては外国語、算数、この辺りがまず取り組みが必要ということでお願いしております。外国語については北中の小菅教諭が当初から積極的に携わっていたのですが、ほぼメインの指導者として授業を行い、小学校の担任はサブとして上手く関与しあうという良い連携を取りながら進めているのを何度か見ております。それから算数・数学ですが、算数は数学の先生がサブで、今の内容が中学校ではこう繋がると上手く見通しを持たせ、小学校と中学校の教科の繋がりが非常に分かりやすく示されていたというのがあります。もう一つ逆パターンで、小学校の先生が中学校の授業に乗り入れるというのがありまして、中1の数学に担当者が行くことによって、その授業の中で小学校の何年生の時にやったことが生かされていると、そういった繋がりを持たせることもしていました。そのようなことをずっと14年やっておりまして、最近は教科が増え理科専科がいたり、中学校のその時々の先生達の都合もありますが体育も何時間かやってみたりしています。理科はこの何年か専科なので、北小3年生以上の理科は理科専科の先生がメインで授業をしているという状況

があります。

それからもう一つ、小学生と中学生合同での活動というのも当初からやっていまして、特に小学校の5・6年生と中1を一つのくくりにした中で小グループを作りコミュニケーション活動をします。ソーシャルスキルトレーニングというものもあり、相手を不快にさせない印象の良い話し方などについて具体的に学ぶ活動をしていますが、これも続いています。

地域に出て海浜清掃などもやっていますし、最近では地域の方との防災活動として地域の方を交えた避難訓練など、学校と地域が共に活動するということも行っています。

大体そのようなことをやっていますが、北小中の強みは校舎が廊下でつながっているためすぐに小中で集まって一緒に活動できることです。人数が少ないというのもありますが、小中の教員が全員児童生徒一人一人の特性を把握しています。固有名詞が出てきて、誰はこういった癖があるから気をつけているなど質の高い交流と共有をしていますので、北小中の子ども達は皆に見守られているというのが良く分かりました。

もう一つ、長く続いているものですから当たり前になっていて、本当に中学生と小学生の関係性の隔たりがないそうです。たまにしかやらないと互いに臆するところがあってのびのびと話したりできないのですが、それがほとんど無く、中学生は堂々とリーダーシップを発揮し、小学生は小学生で普通に質問や意見などしながらやっているそうです。この何年か教育現場で使われている言葉で「心理的安全性」というものがあります。北小中はこの小中一貫活動によって学校全体に心理的安全性が形成されているというのも感じています。以上です。

（出﨑教育長）

はい、ありがとうございます。

大島指導主事の方からいろいろ取り組みを聞きましたが、例えば運動会も合同でやっているなどありますが、一方で小学生と中学生が交じり合うことによって6年生が遠慮してしまうということが少し課題ではないかと思いました。

ここからは、いろいろ聞いて下さればお答えします。

（照井町長）

ちょっと私からいいでしょうか。

まず北小中の一貫教育についてお話いただきました。平成21年4月からということで、ちょうどその時期新聞記者をやっていて、小中一貫教育を始めるという記事を書いたような気がすると思いながら話を聞いていました。それから10年以上経って成果が見えつつあるかと思うのですが、近年新たに取り組んだことや取り組む予定などはあるのでしょうか。

（大島指導主事）

そうですね、項目として新たなものは無いと押さえています。ただ、14年の間にはやはり取り組みの意識や熱量など波もありますので、私が指導主事になった頃はちょっとマンネリ化の傾向がありシステムとしてやっていけばいいというような雰囲気を感じましたし、やはりそれでは後退すると思いました。小中一貫の取り組みは往々にして中学校の先生がアクションして小学校は恩恵を受ける側という構図があり、小学校の先生はそれほど負担感なく良いことばかりですが、中学校の先生は乗り入れ授業など負荷がかかってくるのでその他の要因もあった場合に大変だという時期もありました。

ただ、停滞感やマンネリがあり負担感しか言わない状態から、今年度は何故か劇的に好転していると

思います。働き方改革もありますけれども減らせる部分は減らそうと、よく分からないけどやるのではなく目的を理解し共有してやった部分は返ってくる小中一貫にしませんかと、出﨑教育長が折に触れ実を取ろうとおっしゃるとおり、今の管理職含め教職員は改善されています。会議の仕方なども工夫されていると思いますし、教育長も参加して北広島に校長５人と視察研修に行って、大事だと思ったことは即現場でやろうということで形になっていると、そういった辺りで今年度は小中一貫教育の質は非常に高いと捉えています。

（照井町長）

逆の質問なのですが、平成２１年から今までやってきてあまり上手くいかなかった、取り組みとして止めたような連携の仕方というのはあったのでしょうか。

（大島指導主事）

止めたというのはあまり耳にしないです。どちらかと言うと平成２９年辺りまでは右肩上がりでやることが増えていったという感じがします。学校教育目標やPTAの統合など小中一貫教育を進めていく組織の体制を整備されていますし、そこで一定の到達点はあったと思います。

けれども管理職も教職員も一定年度で変わりますのでその変わり目はどうしても、年度当初に教育委員会も当該校の管理職も何故やるのかしっかりと周知共有することが一番大事だと、それをやらないと漫然と取り組み後に負担感が増していくことになると、過去５年間の中でそれを反省しました。校長が２人代わったので４月に訪問しイメージを共有して貰ったところ、自分事としてしっかりと進めてくれたと思います。やはりこの年度初めの周知共有は非常に大事だと思います。

あとは教務の進行管理表ですね。これがあると無いでは全く違うだろうと感じました。

（照井町長）

私としては小中一貫教育を進めていただいて、その垣根を越えて中１ギャップなどを解消するような取り組みであるとか、あるいは学習面でより効果的に子ども達に教えられる体制を作るのは非常に大事だと思いますので、今大島先生がおっしゃった教員への負担感をどうしていくのかということと、その目的に向かっていく意思統一というか、教員の意欲を掻き立てるような体制を作ることが大事なのではないかと思って話を聞いていました。

他の委員さんはいかがでしょうか。何かあれば。

では私からもう少し質問させていただきたいのですけど、中１ギャップの学習面だけではなく不登校やいじめ、他の同じような規模の小中学校と比べて多いのか少ないのか変わらないのか、そういったデータなどがもしあれば教えていただきたいと思います。

（大島指導主事）

不登校の数は波がありまして、小中一貫を進めてきた中で北中は規模の割に数が多い時期が２～３年間ありました。いろいろな要因はありますけど学校に落ち度がなかったかという視点で見ると、いくつかは初動で適切な対応をしていればそこまで泥沼化しなかったのではないかと反省するケースもございます。学校でのいじめが原因で不登校になる重大事案とまではいかないけれど、微妙な人間関係のずれによって小学校６年生から登校しぶりが始まり長期化してしまったということがありました。きちんと解決した訳ではなく卒業して送り出したことで実数が減ったのですが、その中で２人ほどは最後に登校できて終わったという状況で、そこがきめ細く手の届く北小中だなと思います。

不登校については学校の中にも要因はあると思うのですが、一方で家庭の中の要因も否めないところです。だからといって家庭で対処しなさいということではなく、教員も保護者との関係性を作りながら学校と家庭の糸が切れないよう頑張ってくれています。試行錯誤しながら少しずつ前進するケースもございまして、良くやってくれていると思います。

回答の方向がずれているかもしれませんけど。

（照井町長）

ありがとうございます。

小中一貫であるかないかに関わらず、いじめや不登校の問題はいろいろ根深いものがあると思いますが、そのまま同じメンバーで中学校に上がる、校舎も隣接していて場所的にほとんど変化がないというところはある意味では良いのかもしれないけど、例えば小学校の時不登校だった場合、中学校で環境の変化が少なく心機一転といったことは起こりにくいので、反面では不登校を継続させるような状況を作っていないかと、それも不登校問題で考慮しなければならないのではないかと思っています。

私は不登校が全て悪いとは思っていなくて、もちろん学校に出て来てほしいですけれども、様々な環境・状況の中で子ども達が不登校でも学習できる環境を作るなど考えなければいけないかと思います。当然いじめは起こってはいけないし、しっかり対処しなければならないことです。

他の委員さん達は小中一貫に関して何かありませんか。

（大島指導主事）

町長がおっしゃったことは全くそのとおりで、北小中は同集団で学年が進んでいくため逃げ場がない環境であるというリスクはございます。小の段階でこじれると非常に難しいですので、何とか小学校のうちに人間関係を保ちながら上手く中学校に行って欲しいと願っています。この数年、３年ほどは上手くいっていると感じております。対応も素早くなっていると思います。これは南部もそうですけれども、家庭訪問に行くなど迅速に行っております。ご指摘ありがとうございます。

（加川委員）

高校も一緒になるかもしれないですよね。保育園からずっと、小中、高校まで同じメンバーなることもありますよね。北中は函館など外へ出る子も多いですけど。

（大島指導主事）

そうですね、高校の段階で半分くらいは町外、他管の函館や札幌などに。

（加川委員）

うちの子が小中一貫の中で育った子ども達で、上の子は日明小学校に入学して、統合の話し合いで水堀に出かけてバス停はどうするとかやっていました。だから、一緒も良いのだけれど、先程町長がおっしゃったように何かあった時には大変な場合もあるかと感じました。

（大島指導主事）

そういった意味ではまだささやかな取り組みですけど小小連携、どちらかと言えば南部の同じ中学校へ行く江小と南小ですが、小学生の時期から交流して親近感を醸成させるという取り組みが２年ぐらい前か

ら具体的に進んでいて、今年度は全学年が一度は交流活動をしています。新しい取り組みでは町全体としての小小連携で、小陸ができなくなった代わりに3つの小学校の4年生以上が学年ごとにスポーツなどで交流しあうという活動をしています。そこで北小の子ども達もいくらか南小・江小の子ども達と交流する機会が出てきました。そういった取り組みは今年度から始まっています。

（照井町長）

何か他に小中一貫でありませんでしょうか。よろしいでしょうか。もう一つの部活動地域移行の件について移ってもよろしいですか。

はい、では部活動の地域移行の件について先程説明を受けましたけれども、檜山の町長達が集まる会議の前段、道教委の学校教育局長が部活動の地域移行について振興局ごとに市町村長達に今の取り組みを伝えるという場面がありました。檜山は道内で一番初めだったのですが、何を目的としているのか理解しにくい部分もありました。子ども達の文化やスポーツ活動に親しむ機会を作るという名目ですけれども、根本的には先生達の働き方の改善ではないか、その手段が地域移行なのではないかというのが町長たちの受け止めでした。そうであれば、先生のなり手が少ないという問題はあるにせよ、地域移行することへの問題より先生を増やしていく取り組みの方が早いのではないかというのが、町長達の意見としてありました。町長として、部活動の地域移行を進めるに当たり財政的な面でしっかり対処する覚悟は持たなければいけないです。しかしながら、どのレベルまで地域移行を進めてどのような部活を維持していくのか目標を作らなければいけないですし、それも現状を維持することが目標なのかどうなのか、部活動の種類は特に団体競技が難しくなっているという現状がありますので、その点をしっかり見定めた中で他の町との連携や民間の皆さんの協力の仕方というのもまた変わってくるのではないかと思っています。まだまだ手探りの状態ではあると思いますけど、一歩ずつ進めていかなくてはいけない問題だと私も感じております。ただやはり、教える側の人材確保も非常に難しいのではないか、財政的な問題よりもその手法をしっかり考えないといけない気がしております。道教委からの説明では令和5年から令和7年の間に移行に向けた準備をしっかりして欲しいということで、その時は道も国もある程度の財政支援を考えているということで、ある程度道筋をつけて欲しいとのことだと認識しています。そういった中で令和5年度ですから、江差町としてどういった動きをするかどんなことができるか少し不安があると思っているのですけれども、一つ質問はその中で近隣との連携という意味で、何か枠組みがあるのでしょうか。

（安田課長）

枠組みが今できているわけではないのですが、実際に合同部活動をしているのが野球で江差・厚沢部、バレーが上ノ国と江差・乙部といった形で、団体競技については近隣の南部4町の中でその時の人数などによって変動しながらやっている状況です。連動の枠組みとするとまずこの南部4町だと捉えております。

（照井町長）

そういう合同でやっていく調整というのは学校同士がやっているのですか、それとも教育委員会同士がやっているのですか。

（安田課長）

現状は学校でやっているという状況です。

（照井町長）

この地域移行ということを見据えた中では、調整は教育委員会同士がやっていくべきではないかと思うのですが、学校に任せるのではなく全体を見ながら教育委員会がどうしていくのか考えていくべきなのではないかと思っています。まずはそういう近隣との枠組みを作って合同でやるような体制、全部できないとしても議論する場が必要なのではないかと感じています。

教育長、何かありますか。

（出﨑教育長）

部活の地域移行については町長の言うとおりで、この地域では国が望む文化・芸術・スポーツ、オールマイティーな活動はできないと思っています。ですから競技や活動の絞り込みは少なからずやっていかなければならないと思います。ただ、教育長達の議論の中でもどこまで動いていいのか様子を見合っているところです。どちらかと言うとまずは自町内の足元を固める所から始まって、江差町では松島先生を先頭にしてスポーツ協会や学校の関係者を集めて議論する場を立ち上げています。そこでアンケートなど集計したものをベースにこれからの進め方を議論している最中です。

（照井町長）

ごめんなさい、その先の話をしてしまったかと、申し訳ないです。まずは江差町内の調整の方が先というのは教育長のおっしゃるとおりだと思います。

ただ繰り返しになりますが、やはりどのレベルまで維持して部活動をしっかり提供していくのか、何を残すか目標を決めた上で、その実現についてどのように対応していくのかということではないかと、その目標設定というか子ども達にこういったことを提供できる環境を作って行きましょうということを見定めて欲しいという気がしています。

少子化が進んで子どもの数が減っていくと今ある部活動も維持が難しくなって、特に団体競技は人数的に難しくなってくると思いますけど、そういったことも見据えた上で近隣との連携も視野にやっていって欲しいというのが、私のお願いです。

他の委員さん何かご意見あるいは質問などはないでしょうか。

（小笠原委員）

例えば今年オリンピックなどを見て、子ども達が何かやりたいと思った時にできないというのは地方に住んでいる子ども達にとって寂しいことではないかと思うのですが、生活圏で言うとやはり4町ではなく函館中心の生活圏の町なので、函館のスポーツ団体を見てみると水泳をやりたいと思ったら水泳をやるところもサッカーやりたいと思ったらサッカーをやるところもあると思います。実際にうちで働いている人の子どもは室蘭大谷でサッカーをやっているのですけれども、中学生の時３年間函館のスポーツ団体のお世話になりながら推薦で入りました。保護者から相談があった時に情報の公開ということで4町にこだわらず函館も含めて情報を提供できる方法も必要なのかなと考えております。

（照井町長）

ご意見ありがとうございました。私もまさに小笠原委員と同じ意見でして、まず、部活動というのは学校の教育の一貫なのかそれとも課外活動なのか捉えでも変わってくるのではないかと思っています。そういった意味から見ても、江差ではできないけれど函館ではできる競技というのはたくさんあると思いますし、その希

望をどう叶えてあげられるかというのも子ども達の文化やスポーツ・芸術と親しむ機会を作るということにつながると思うので、学校の中でやるべきものとそれ以外で担えるものがあり、だからこそ函館も視野に考えていかなければいけないと、まさに小笠原委員がおっしゃるとおり思っています。

なかなかその線引きも難しいですけれども、学校教育の一貫であるとするならば、義務教育ですから全国どこでもある程度の機会を提供するということが地方自治体には求められていますし、それは国も道も地域に任せるだけではなく最低限のものができるように仕組みを作るということも大事なのではないかと思っていて、何か問題があれば地域が考えろというのは違うのではないかと、特にこの義務教育に関しては違うのではないかと感じております。函館でできる競技や文化活動というものを子ども達にどう支援していくのかということも考えていかなければいけないと思いました。ご意見ありがとうございます。

他に何かご意見などあれば。

教育長も何かあれば。

（出﨑教育長）

小笠原委員のおっしゃるとおり、そういう視点は大切だと気付かされました。この辺りの牌の少ない枠組みでどうやって持続可能なものを作るかと言われた時に恐らく答弁に詰まるだろうという中で、そういう視点があると。そうなると、その対応も含めたきめ細かなサービスというのは、先程町長も言われたようにどういった財政支援があるか仕組みをいろいろと考えて構築して、町長部局と我々とで取捨選択しながら形作っていくということをやっていかなければならないと、改めて思いました。部活動の地域移行に新たな視点で進められそうな気がします。ありがとうございました。

（照井町長）

何か他に皆さんからないでしょうか。約１時間ということでよろしいでしょうか。

では、引き続きこの小中一貫と部活動の地域移行についても教育委員会と町長部局で連携しながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

５その他

（鈴木係長）

それでは、全体を通して何かございますか。よろしいでしょうか。

では、総合教育会議を閉じたいと思います。皆さんありがとうございました。

６閉会